



販売店・工事店様用

## 三菱電機 ビル・店舗用

### エアコン別売部品

### 自然蒸発式加湿器

#### 形名

PAC-KG16HUL

PAC-KG18HUL

PAC-KG26HUR

PAC-KG28HUR

## 取付説明書

### もくじ

安全のために必ず守ること	2
1. 適用機種	5
2. 構成部品	5
3. 取付け時のご注意	6
4. 取付要領	7
<1> ドレンパン取外し要領	7
<2> 加湿器の取付け	9
<3> ユニット本体部品の再取付け	12
5. 配線の接続要領	13
6. 加湿器 2台取付時の配線	14
7. スイッチ設定	14
8. ユニット本体の吊下げ	16
9. 給水配管の取付け	17
10. 加湿器の試運転	18
<1> 加湿器からユニット本体への排水性確認	18
<2> 加湿器動作およびドレンポンプ動作確認	18
<3> 加湿シーズン前の点検事項	19
11. 電気配線図	20
12. 加湿エレメントの交換	21

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- ・ この製品は国内専用です。日本国外では使用できません。  
This appliance is designed for use in Japan only  
and can not be used in any other country.

# 安全のために必ず守ること

- ・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、取り付けてください。
- ・ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

## ⚠ 警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危険の程度

## ⚠ 注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危険・損害の程度

- ・図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(接触禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般注意)



(発火注意)



(一般指示)

- ・お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ・お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

## ⚠ 警告

電気配線工事は「第一種電気工事士」の資格のある者が行うこと。

## 一般事項

## ⚠ 警告

### 特殊環境では、使用しないこと。

- ・油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

### 改造はしないこと。

- ・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

### ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

## ⚠ 注意

### パネルやガードを外したまま運転しないこと。

- ・高電圧部に触ると、感電のおそれあり。
- ・高温部に触ると、火傷のおそれあり。



使用禁止

### 部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

- ・けがのおそれあり。



接触禁止

### 食品・動植物・精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しないこと。

- ・保存品が品質低下するおそれあり。



使用禁止

### 作業するときは保護具を身につけること。

- ・けがのおそれあり。



けが注意

### 運転停止後、すぐにユニットの電源を切らないこと。

- ・運転停止から5分以上待つこと。
- ・ユニットが故障し、水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



禁止

### 水回路の温度が0°C以下になるところに加湿器を設置しないこと。

- ・水回路凍結によりユニットが損傷するおそれあり。
- ・水漏れにより家財がぬれるおそれあり。



指示を実行

## 運搬・据付工事をするときに

### ⚠ 注意

20kg 以上の製品の運搬は、1人でしないこと。

- ・けがのおそれあり。



運搬禁止

## 据付工事をするときに

### ⚠ 警告

梱包材は破棄すること。

- ・窒息事故のおそれあり。



指示を実行

### ⚠ 注意

ぬれて困るもの上に据付けないこと。

- ・湿度が 80% を超える場合や、ドレン出口が詰まっている場合、室内ユニットからの露落ちにより、天井・床がぬれるおそれあり。



据付禁止

販売店または専門業者が取付説明書に従って取付工事を行うこと。

- ・水漏れ・けが・感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。

- ・据付けたユニットに傾斜がある場合、ドレン漏れのおそれあり。



指示を実行

## 電気工事をするときに

### ⚠ 警告

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ・伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ・発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

電気工事は第一種電気工事士の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ・電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ・漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

## 移設・修理をするときに

### ⚠ 警告

改造はしないこと。ユニットの移設・分解・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

- ・冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

## お願い

ユニットを電気的ノイズの発生源がある所に据付ける場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ・インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響によるユニットの故障・誤動作のおそれあり。

ユニットから発生する電気的ノイズが問題となる所に据付ける場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ・医療行為を妨げるおそれあり。
- ・映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれあり。

部品端面や熱交換器のフィン表面を素手で触れないこと。

・けがのおそれあり。



接触禁止

## お願い

- 取付けは下記の取付要領に従って、確実に行ってください。
- 取付けはユニット本体の電源を切った状態で行ってください。
- 取付けはユニット本体を吊下げる前に行ってください。

## 1. 適用機種

本加湿器に対応する適用機種を必ず確認し、誤使用のないようにお願いします。

注：取付機種によってエレメント位置の変更が必要です。下表で対象機種を確認してください。

(変更要領は「(3) ユニット本体に加湿器を取り付けます。(10 ページ)」参照してください。)

形名		適用機種		
左勝手	右勝手	エレメント位置の変更不要	エレメント位置の変更が必要	
PAC-KG16HUL	PAC-KG26HUR	PLFY-P71 形	PLFY-P22・28・36・45・56 形	
PAC-KG18HUL	PAC-KG28HUR	PLFY-P112・140 形	PLFY-P80・90 形	

## 2. 構成部品

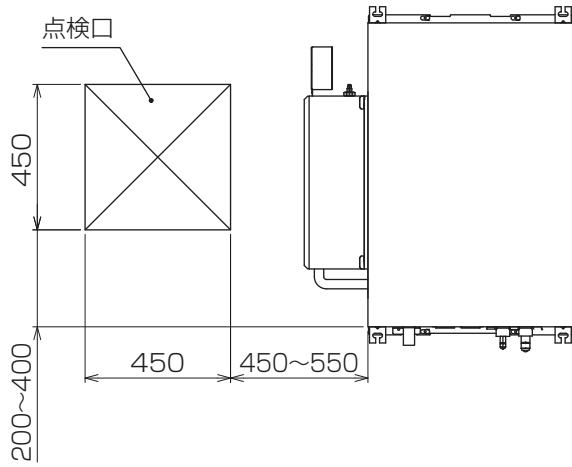
この別売部品には加湿器以外に下記同梱部品が付属されておりますので取付け前に確認してください。

名称	①ネジ 4×10 (予備2本)	②結束バンド	③ドレンホース	④断熱材 A (長方形)	⑤断熱材 B (長方形)
数量	16・26形: 16本 18・28形: 20本	2 個	1 個	2 個	2 個
形状					
名称	⑥断熱材 C	⑦パイプカバー	⑧クランプ (両面テープ付)	⑨プレート	
数量	1 個	大小各 1 個	2 個	2 個	
形状					
名称	⑩ケーブルストラップ	⑪配線組立	⑫金属バンド	⑬電磁弁試運転コネクタ	
数量	16・26形: 3個 18・28形: 4個	1 個 26・28形のみ	1 個	1 個	
形状					

名称	⑭断熱材 D	⑮断熱材 E	⑯断熱材 F (長方形)	⑰断熱材 G (長方形)	⑲断熱材 H	⑳断熱材 I (長方形)
数量	1 個	1 個	2 個	2 個	1 個	1 個 (18・28形のみ)
形状						

### 3. 取付け時のご注意

- 1) 必ず製品本体は電源を切り、安全のため軍手等保護具を着用のうえ、実施してください。
- 2) 濡れて困るもののに上にユニットを据付けないでください。開閉弁やドレン出口が詰まっている場合は室内ユニットから露が落ちる場合もあります。
- 3) 室内ユニットの本体吊り下げ時は本体が必ず水平になるように水準器等を使用して調整してください。水漏れの原因になります。
- 4) 点検口およびサービススペースを必ず確保してください。加湿器の取付け・メンテナンスのために必要です。加湿器を二個取付けの場合はそれぞれの点検口・サービススペースが必要です。



左側取付け (PAC-KG16HUL) 時のサービススペース

#### <注意>

加湿器の本体への取付方向にご注意ください。

本体吊り状態にて配管側からみて

左側面には左勝手の加湿器(PAC-KG16・18HUL)

右側面には右勝手の加湿器(PAC-KG26・28HUR)  
を取付けることができます。

※左図は左勝手の上面図を示します。



- 5) 供給水質は市水、上水またはこれと同等以上の水を使用してください。

※ 供給水が下記水質を満足しない場合は、加湿エレメントの劣化が早まり加湿能力の低下、変色、白粉発生など現れることがあります。

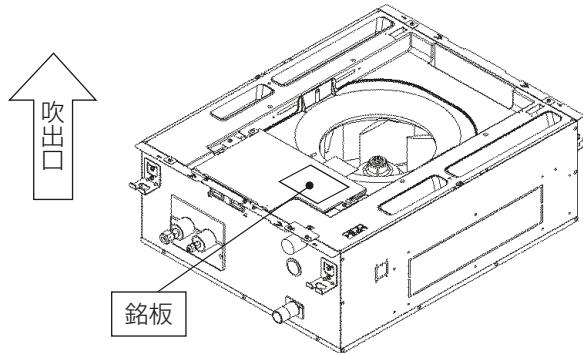
全硬度・・・70mg/L 以下  
M アルカリ度・・・50mg/L 以下  
溶性シリカ・・・30mg/L 以下  
供給水温度・・・5 ~ 40°C

## 4. 取付要領

ユニット本体の形名により、取付要領が異なります。

図に記している銘板で形名を確認したのち、作業を行ってください。

また、以下の取付作業説明はユニット据付け前を想定して図のように吹出口を上に向かた状態で行います。



注. ユニット本体加工の際、切りカスがドレンパンに詰まり水漏れにいたる可能性がありますので、取付け作業の際は下記要領でドレンパンを取り外して作業し、作業後に切りカスを完全に除去してください。

### <1> ドレンパン取外し要領

#### (1) ベルマウスを取外します。

PLFY-P22～71形はベルマウスが1個になります。(ネジ2本) (図1)

PLFY-P80～140形はベルマウスが2個になります。

制御箱に近いベルマウスを取り外してください。(ネジ2本) (図2)

PLFY-P22～71形の場合

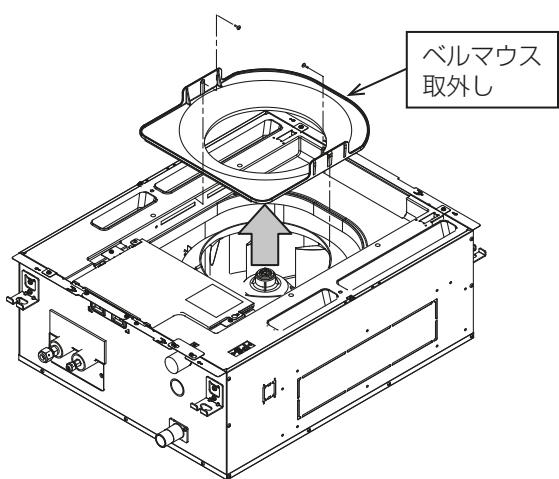


図1

PLFY-P80～140形の場合

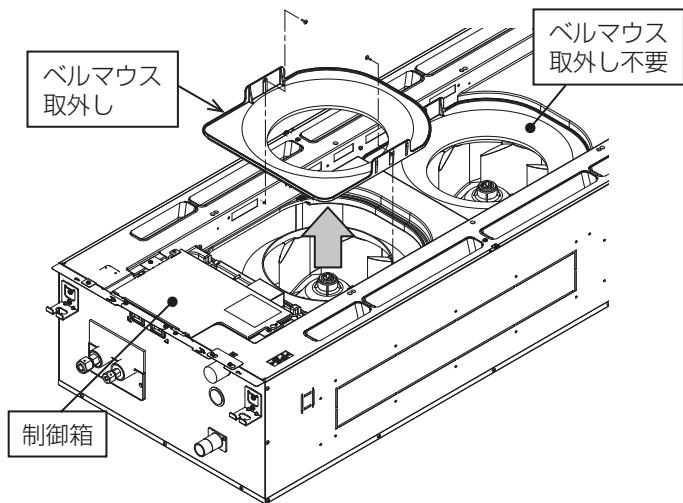


図2

#### (2) 制御箱を取外します。

1) カバーネジを緩め、カバーを矢印方向へスライドさせます。(図3)

2) ストップネジを外します。(図3)

3) カバーを矢印方向へ起し、取外してください。(図4)

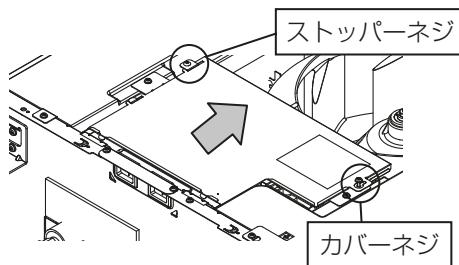


図3

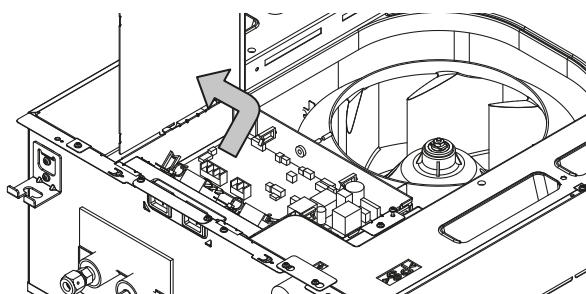


図4

4) 制御箱内の以下のコネクタを取り外します。(図5、表1)

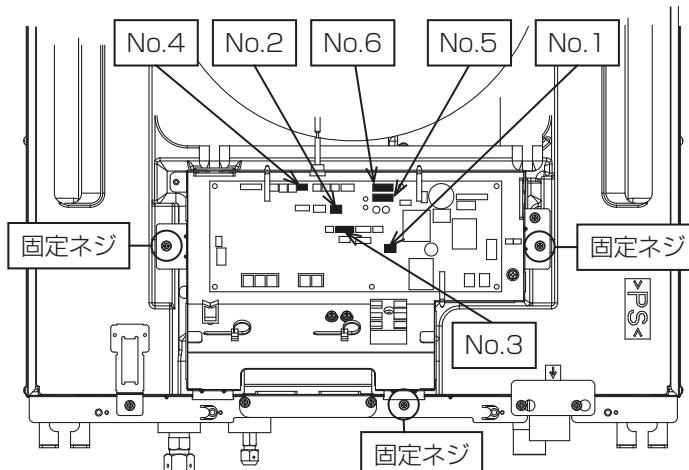


図5

#### 取り外しコネクタ一覧

No.	機器	コネクタ名	極	色
1	ドレンポンプ	CNP	3	白
2	フロートスイッチ	CN4F	4	白
3	リニア膨張弁	CN60	6	白
4	液・ガス温度センサー	CN44	4	白
5	ファンモーター1	CNMF1	7	白
6	ファンモーター2*	CNMF2	7	青

\* PLFY-P80～140形のみ

表1

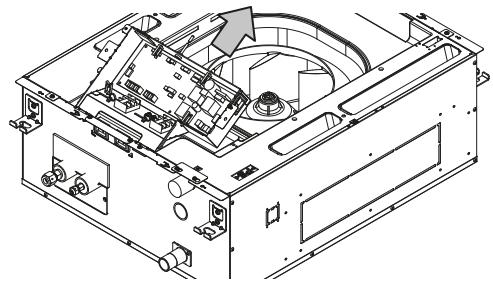


図6

#### (3) ドレンパンを取外します。

注. ユニットを吊り下げている場合、ドレンパンの排水ソケット部についているゴム栓をゆるめてドレンパン内の残水を排水してください。その際、ゴム栓をゆるめる前にバケツ等を準備し、排水を受けられる状態にしてください。  
万が一の場合を考え、机やフロア部はシート等で養生し、水が直接かかるないようにしてください。

1) ドレンパンプレート固定ネジを緩め、プレートを矢印方向へスライドさせプレートを取り外します。(ネジ2本) (図7)

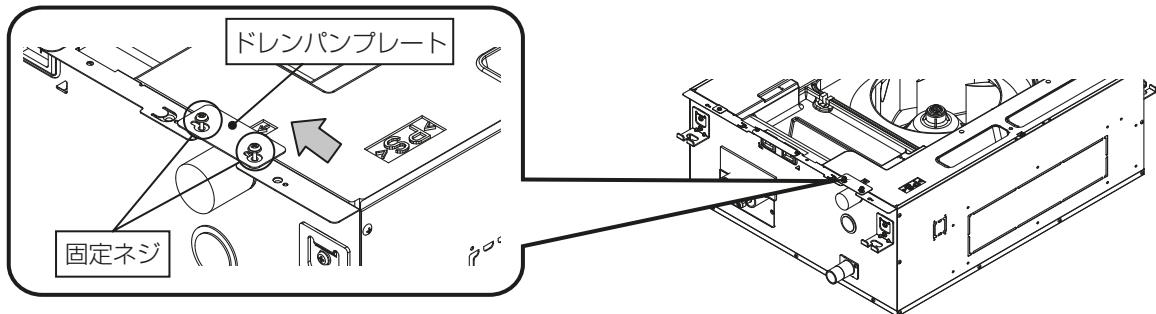


図7

2) ドレンパン固定ネジを取り外し、ドレンパンを取り外します。(ネジ5本) (図8)

注. 前後左右を少しづつ引き出してください。また、ドレンパンは発泡スチロール製です。割れないよう取扱いに注意してください。

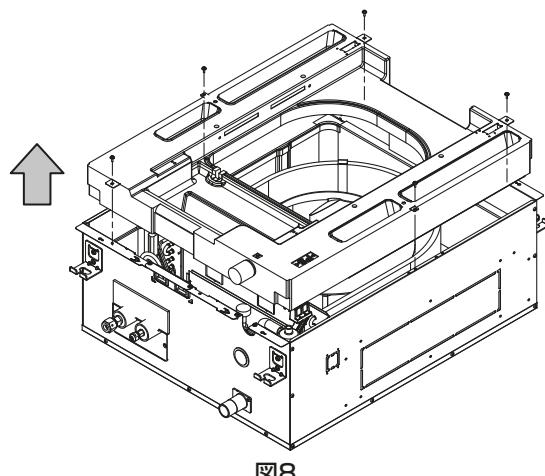


図8

## <2> 加湿器の取付け

### (1) ユニット本体の側面に加湿器取付け用穴、ドレンホース挿入口を開口します。

- 1) 金切りハサミ等でユニット本体サイドフレームのスリットに沿って開口部を切り取ってください。  
その際、ハサミの先を下図の角穴に差し入れて切り離してください。(図9・表2)

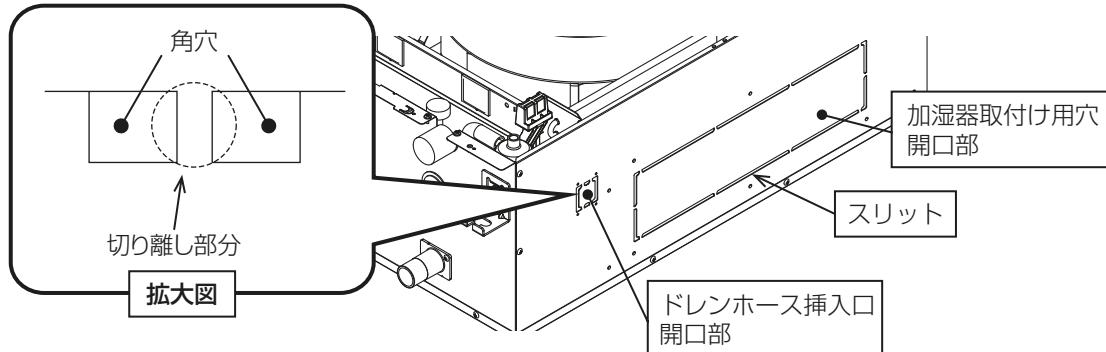


図9

形名別開口寸法表

ユニット本体形名	取付け加湿器形名	加湿器取付 開口寸法 (mm)	ドレンホース挿入口 開口寸法 (mm)
PLFY-P22～P71形	PAC-KG16・26形	435×110	40×40
PLFY-P80～P140形	PAC-KG18・28形	754×110	

表2

- 2) 次に開口部に沿って内側のスチロールをカッターナイフ等で切り離してください。(図10)

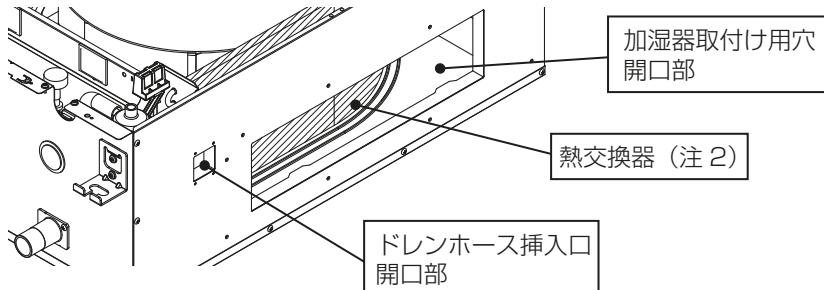


図10

- 注 1. 開口作業にはノコギリ等の切りカスが出やすい工具は使用しないでください。ドレン水が詰まり、水漏れの原因となります。なお、スチロールを切った時に出る切りカスは必ず除去してください。
- 注 2. ユニット本体サイドフレームから約50mmのところに熱交換器があります。作業工具の刃で傷つけないように注意してスチロールを切り取ってください。

### (2) 開口部に付属の断熱材A④、断熱材B⑤および断熱材C⑥を貼り付けます。(図11)

- ・断熱材A④と断熱材B⑤はスチロールと本体サイドフレームをはさむように貼ってください。
- ・断熱材C⑥は切込み部を内側へ折り曲げて貼ってください。

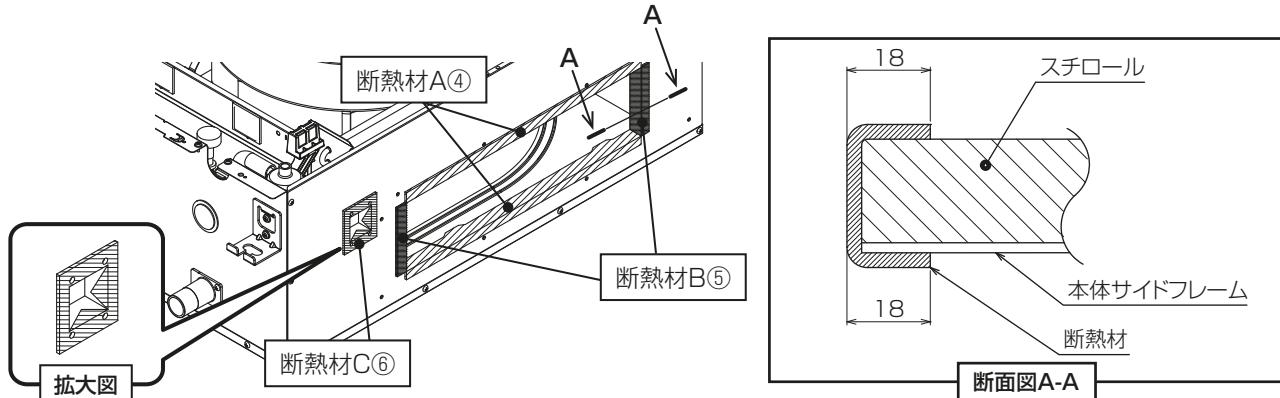


図11

### (3) ユニット本体に加湿器を取付けます。

1) 加湿器カバーを外してください。(ネジ3本) (図12)

注. 下表(表3)のユニット本体に加湿器を取り付ける場合、エレメント位置を変更する必要があります。

変更しなかった場合、加湿不足の原因となります。

エレメント位置変更が必要な機種

ユニット本体形名	取付け加湿器形名
PLFY-P22・28・36・45・56形	PAC-KG16・26形
PLFY-P80・90形	PAC-KG18・28形

表3

\* 表3に記載がない機種は、この作業は不要です。

3) へ進んでください。

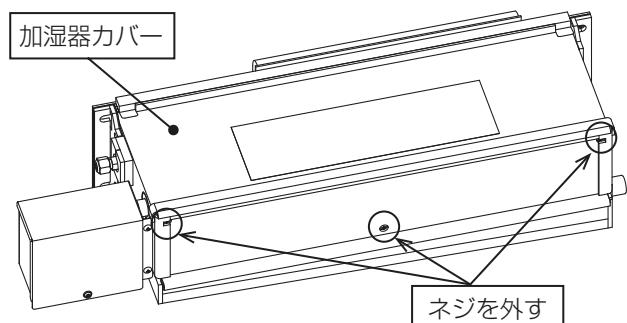


図12

2) 以下の手順で給水タンク位置を変更してください。

①給水タンクの固定ネジを取外してください(ネジ2本) (図13①)

②エレメントがより露出する方向へ給水タンクをずらしてください。(図13②)

③給水タンクをずらした位置で元の固定ネジを使用して固定してください。(図13③)。

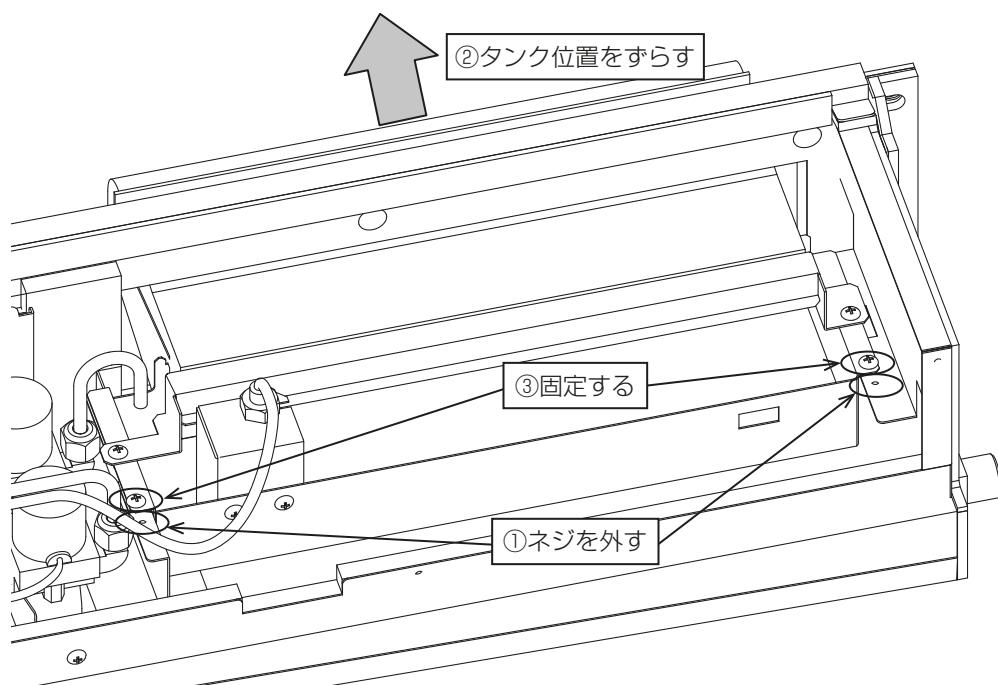


図13

3) 図14の①～③にしたがって、エレメントの状態を確認し、異常が認められる場合は修正してください。

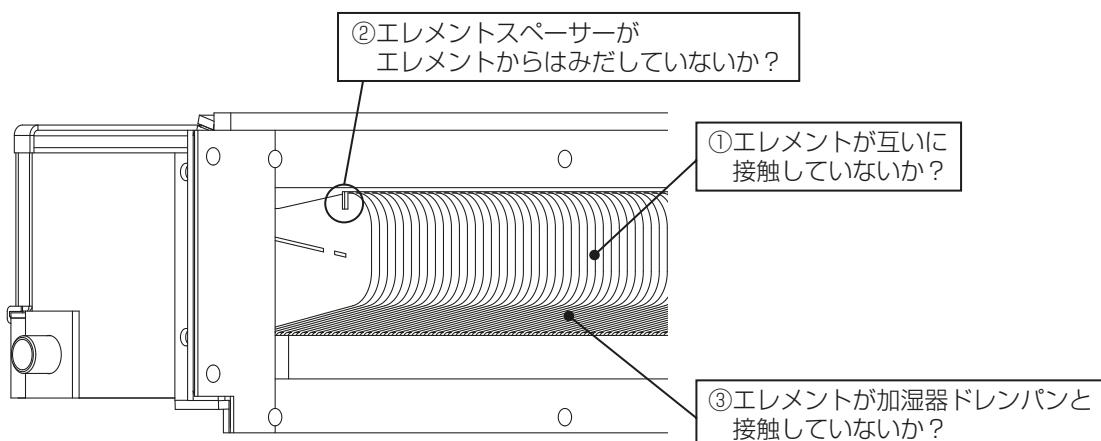


図14

- 4) 加湿器の排水口がユニット本体の配管側となるようにユニット本体サイドフレームの開口部へ挿し込んでください (図15)。加湿器をサイドフレーム当たり面まで挿し込んだ後、付属のネジ4×10①でサイドフレームに固定してください (図16)。

ネジ止め数 : PAC-KG16・26形・・・10本  
PAC-KG26・28形・・・12本 (中央部が増えます。)

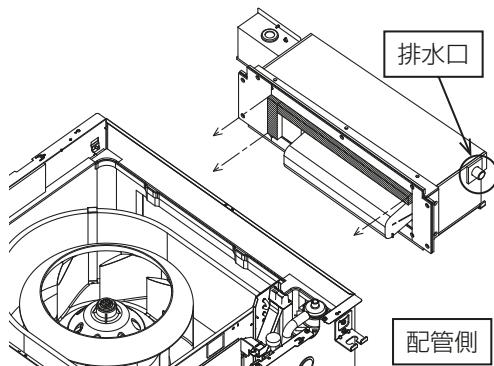


図15

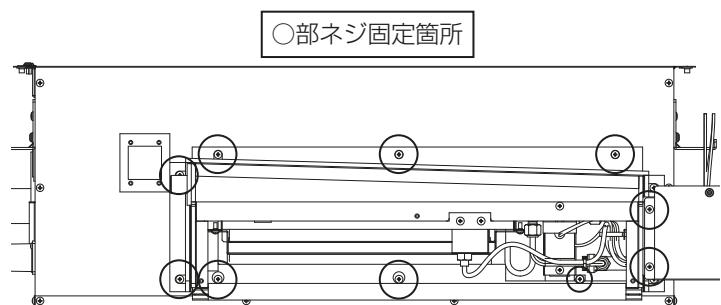


図16

- 5) 加湿器固定後、加湿器カバーを元通りに取付けてください。

#### (4) ドレンホース③を取付けます。

- 1) (1) で開口したドレンホース挿入口へドレンホース③を挿入してください。  
その際、斜めカット加工を施してある側を本体ユニット内部側に挿入してください (図17)。
- 2) ドレンホースを加湿器排水口根元まで挿入し、金属バンド⑫で固定してください (図17)。  
注: 水漏れの原因になりますので、ドレンホースが確実に挿入されていることを確認してください。
- 3) ドレンホースを挟み込むようにプレート⑨を、断熱材が外側になるようにネジ4×10①で固定してください。(ネジ4本) (図18)

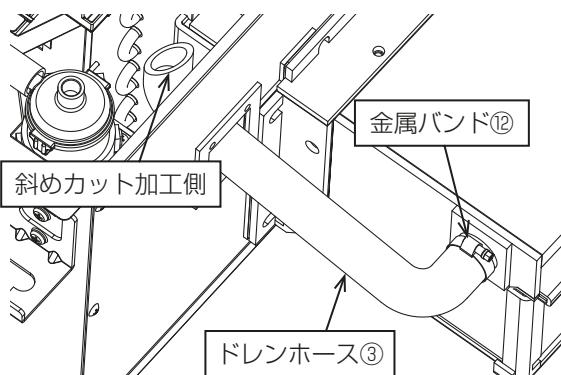


図17

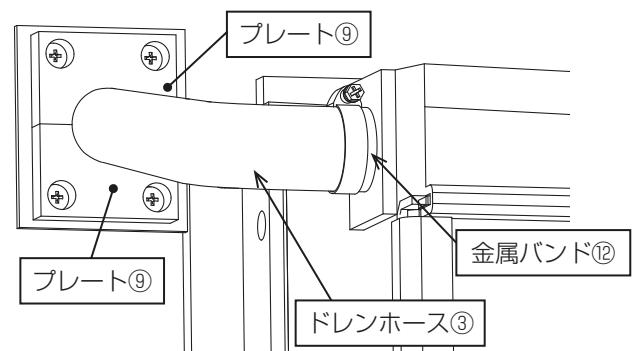


図18

#### (5) ドレンホース③にパイプカバー⑦を取付けます。

- 1) パイプカバー⑦大小を図19のようにドレンホースに隙間なく巻き付けてください。
- 2) パイプカバー大小の継目をビニルテープ (現地手配) で空気・液体が入らないよう貼り付けてください。

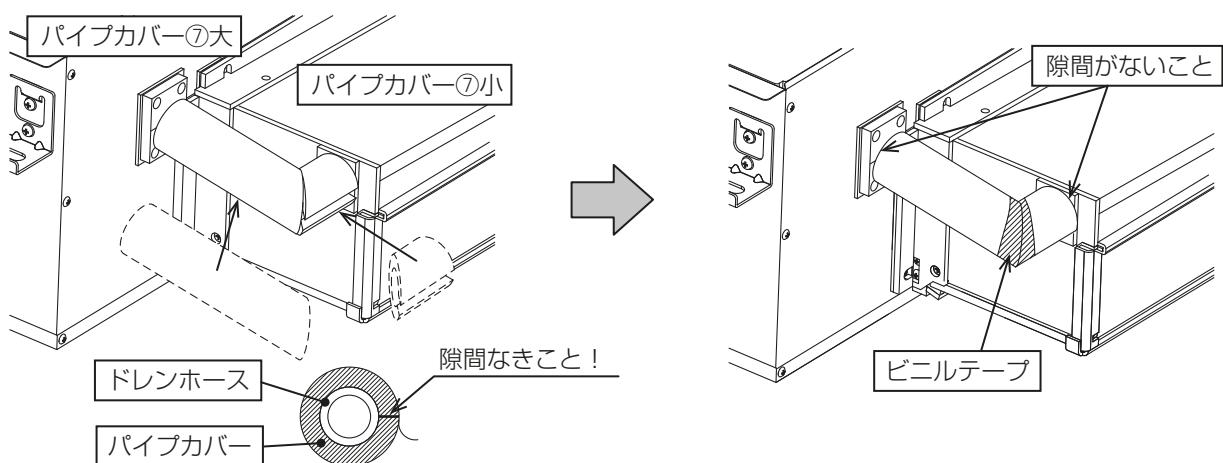


図19

## (6) 本体ユニット加湿器取付側のサイドフレームに断熱材を貼り付けます。

断熱材D⑯→E⑮→F⑯→G⑰→H⑯→I⑲の順で貼り付けてください（図20）。

本体ユニット形名がPLFY-P22～45形の場合、断熱材H⑯は切断して使用してください。

切断位置にスリットが入っていますので、ハサミ等で切斷してください。切斷した網かけ部分は使用しません（図21）。本体ユニット形名がPLFY-P80～140形の場合、断熱材H⑯にスリットは入っていませんので、そのまま使用してください。

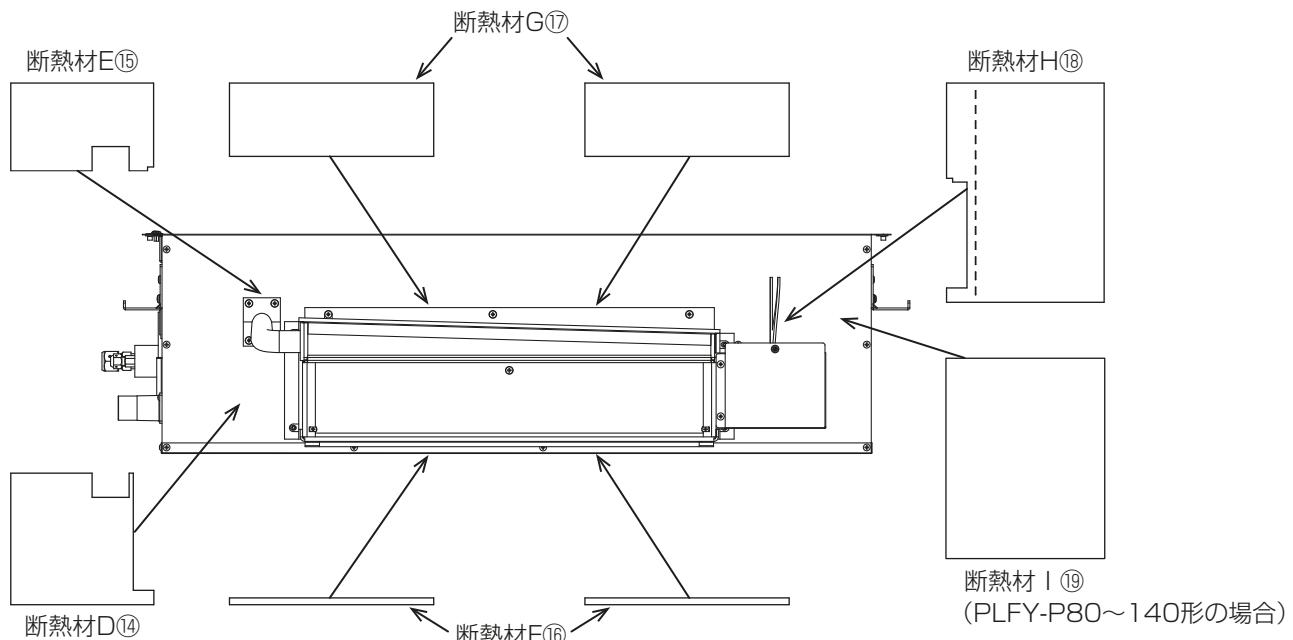
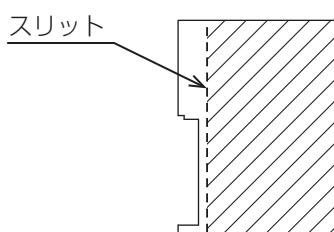


図20



ユニット本体形名	スリット	断熱材 H⑯処置
PLFY-P22～45形	有	切斷して使用してください。
PLFY-P56・71形	有	そのまま使用してください。
PLFY-P80～140形	無	そのまま使用してください。

表4

図21

注：貼り付け前に各断熱材の形状・貼り付け位置を確認してください。

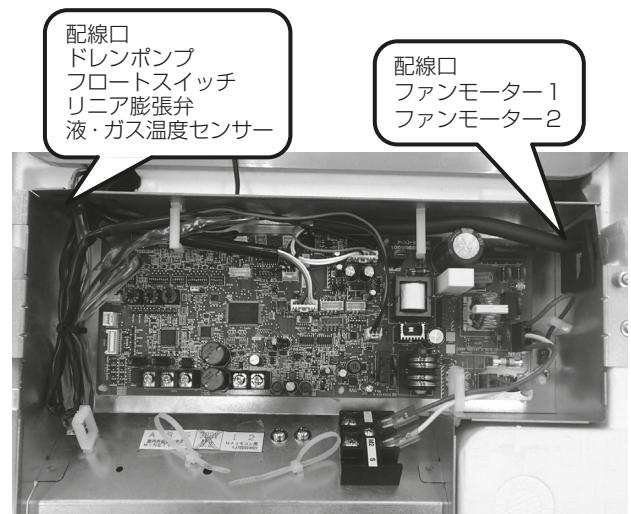
各断熱材同士または断熱材と加湿器本体の間に隙間ができるないように貼り付けてください。

### <3> ユニット本体部品の再取付け

ユニット本体内にスチロール等の切りカスがないことをもう一度確認して「<1> ドレンパン取外し要領」(7ページ)と逆の要領で制御箱、ベルマウス、ドレンパンを取り付けてください。その際、制御箱カバーは後述する「5. 配線の接続要領」の作業が終了してから、取付けてください。

※ ベルマウスを取付けた後に、ベルマウスとファンの干渉がないことを確認してください。

※ 制御箱取付時、リード線の挿入し忘れ、挟み込みに注意してください。



制御箱内配線

## 5. 配線の接続要領

### (1) 加湿器制御箱から出ているリード線を本体ユニット制御箱へ取回します。

- 1) 付属のケーブルストラップ⑩を加湿器フランジの穴に挿入し、加湿器制御箱から出ているリード線を通します（図22）。

加湿器形名 PAC-KG16・26形：3箇所

加湿器形名 PAC-KG18・28形：4箇所

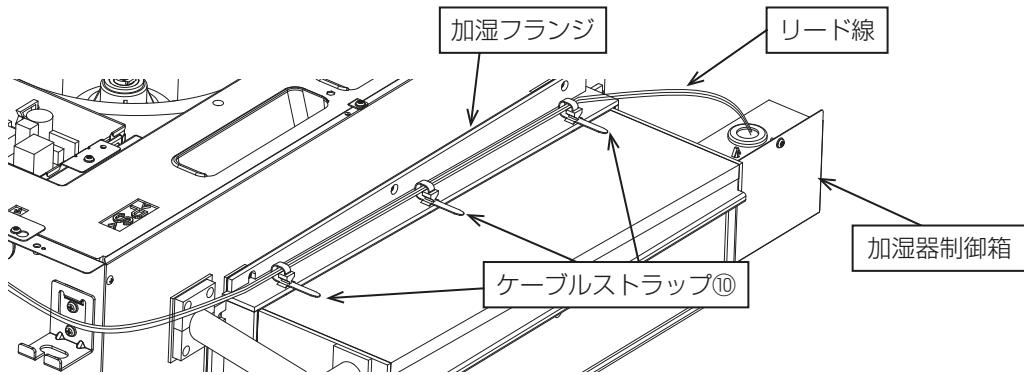


図22

- 2) ユニット本体のゴムブッシュに加湿器制御箱からのリード線を通します。リード線は電源線（赤／白）と伝送線（灰）があり、図23のように別々にゴムブッシュに通してください。

- 3) 電源線（赤／白）と伝送線（灰）をそれぞれ下記の基板コネクタへ接続してください（図24・表5）。

- 4) コネクタ接続後、クランプ⑧（両面テープ付）を使用して、各リード線をユニット本体に固定してください（図23）。

※各リード線は張力がかからないように固定してください。

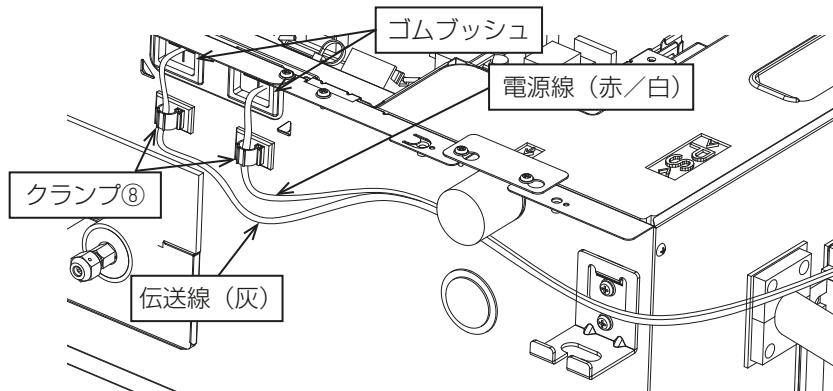


図23

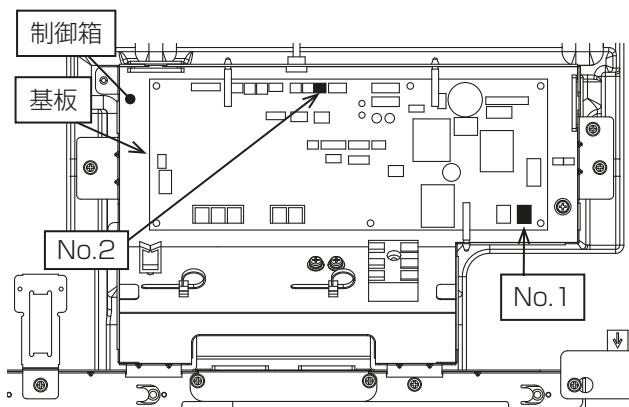
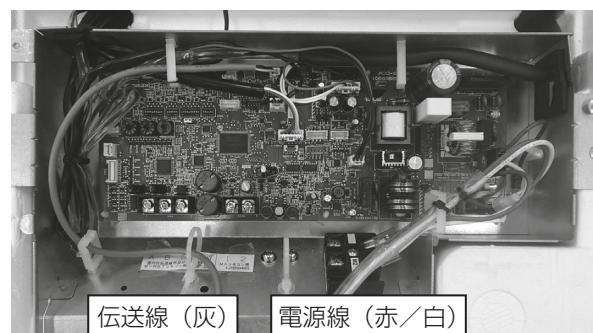


図24

No.	線種	コネクタ名	極	色
1	電源線（赤／白）	CNAC	3	赤
2	伝送線（灰）	CN25	2	白

表5



## 6. 加湿器 2 台取付時の配線

加湿器を左側／右側の 2 台取付ける場合は付属の配線組立① (PAC-KG26・28HUR のみ付属) にて、加湿器制御箱の電源線と信号線 (リレー) を接続してください。右勝手の加湿器配線 (電源／伝送) を左勝手から取る配線に変更します。(図25)

- 1) <左勝手>配線組立①の電源線 (赤／白) を制御箱底面の穴 (ゴムブッシュ) を通し線色を合わせ電源端子台 R、S に接続してください。
- 2) <左勝手>配線組立①の伝送線 (青) のファストン端子側をリレーの 4、6 番端子に接続してください。
- 3) <右勝手>配線組立①の電源線 (赤／白) を線色を合せ電源端子台 R、S に接続してください。
- 4) <右勝手>配線組立①の伝送線 (青) を端子台の S と右隣の端子に接続してください。
- 5) <右勝手>に接続されていた配線は使用しませんので取外してください。

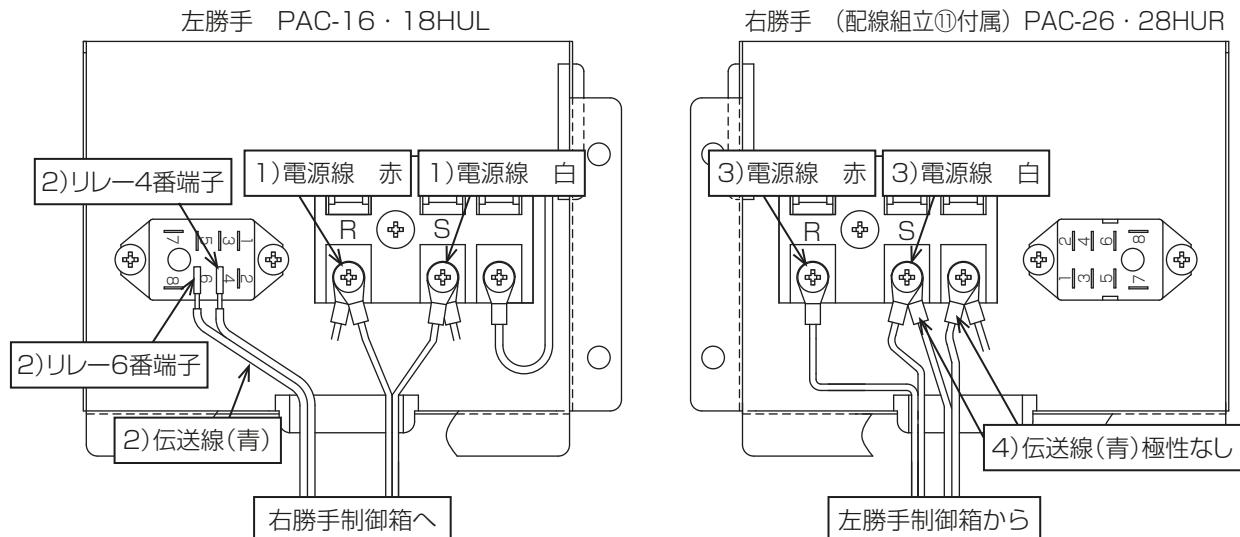
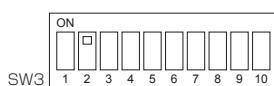


図25

## 7. スイッチ設定

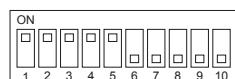
- 1) ユニット本体制御基板上のスイッチ (SW3-2) の設定  
ユニット本体の制御基板上のスイッチ (SW3-2) を『ON』にしてください。  
ON にしないと加湿器電磁弁が作動しません。



室内ユニットの暖房時の運転状況による加湿器運転の有無を変更出来ます。

- 2) 加湿器運転制御について、スイッチにより下記設定を行う。  
※ オーナー様、ゼネコン関係者様や建物の管理人様のご希望により変更してください。

スイッチ設定	加湿器運転
	室内ユニットが暖房サーモ ON 状態で加湿器運転
	室内ユニットがファン ON 状態で加湿器運転 (工場出荷時)



スイッチの見方例：左記スイッチは 1～5 が ON、6～10 が OFF を示します。

- 3) ユニット本体制御基板上のスイッチ (SW21-1,2,5) または、リモコンによる機能選択の設定  
 別売の高性能フィルター、パワー脱臭フィルターおよび吹き分けプレート (7:3)、加湿器を組み込む場合や、高天井の場合は、制御基板上のスイッチ (SW21-1,2,5) 設定または、リモコンによる機能選択にて設定が必要となります。  
 (対象リモコン: PAR-32MA 以降、PAR-F30ME 以降)

**お願い**

- 別売部品組込・高天井設定をリモコンで設定した場合、最新操作を優先するため、制御基板上のスイッチ設定と実際の設定は異なる場合があります。最新の設定を確認する場合は、リモコンから確認してください。

[1] 設定方法（スイッチ設定または機能選択）を確認し選択する。

設定の手順、操作方法はリモコンに付属の説明書及び下記手順に従ってください。

設定方法（スイッチ設定または機能選択）により、機能設定 No.32（スイッチ設定 / 機能選択切替）を変更する。

- スイッチから設定する場合【初期設定】・・・機能設定 No.32 の設定値を『1』にする。
- リモコンから設定する場合・・・機能設定 No.32 の設定値を『2』にする。

スイッチ設定 / 機能選択切替	機能設定 No. No.32	初期 設定	チェック欄	
			スイッチ設定	機能選択
スイッチ設定	1	○		
機能選択	2			

[2] 設定番号一覧表から設定番号を確認する

下表の設定番号一覧から別売部品組合せにより設定番号を確認する。

設定番号一覧表

		別売部品組合せ																
別売部品	ロングライフフィルター	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		
							○	○	○	○	○	○	○	○				
															○	○		
		○	○				○											
	加湿器		○	○				○			○		○		○			
設定番号	低天井	リモコン 設定	No.08	1	3	1	2	2	3	2	3	1	1	2	2	3	3	1
		リモコン 設定	No.10	1	1	2	1	1	1	2	1	2	2	2	2	1	1	2
		スイッチ設定番号	①	③	④	②	②	③	⑤	③	④	④	⑤	⑤	③	③	④	
		チェック欄																
	標準	リモコン 設定	No.08	2	1	2	3	3	1	3	1	2	2	3	3	1	1	2
		リモコン 設定	No.10	1	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
		スイッチ設定番号	②	④	⑤	③	③	④	⑥	④	⑤	⑤	⑥	⑥	④	④	⑤	
		チェック欄																
	高天井 2.7m	リモコン 設定	No.08	3	2	3	1	1	2	-	2	3	3	-	-	2	2	3
		リモコン 設定	No.10	1	2	2	2	2	2	-	2	2	2	-	-	2	2	2
		スイッチ設定番号	③	⑤	⑥	④	④	⑤	-	⑤	⑥	⑥	-	-	⑤	⑤	⑥	
		チェック欄							-				-	-				
	高天井 3.0m	リモコン 設定	No.08	1	3	-	2	2	3	-	3	-	-	-	3	3	-	
		リモコン 設定	No.10	2	2	-	2	2	2	-	2	-	-	-	2	2	-	
		スイッチ設定番号	④	⑥	-	⑤	⑤	⑥	-	⑥	-	-	-	-	⑥	⑥	-	
		チェック欄			-				-		-	-	-	-			-	
	高天井 3.3m	リモコン 設定	No.08	2	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		リモコン 設定	No.10	2	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		スイッチ設定番号	⑤	-	-	⑥	⑥	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		チェック欄		-	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	高天井 3.5m	リモコン 設定	No.08	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		リモコン 設定	No.10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		スイッチ設定番号	⑥	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		チェック欄		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※ 別売部品の組合せによっては、高天井設定ができません。

### [3] 制御基板上のスイッチにより設定する場合

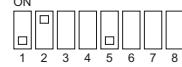
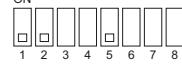
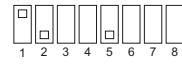
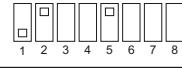
#### 【お願い】

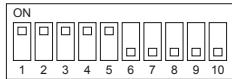
- ・室内ユニットの電源を OFF 状態で実施してください。

制御基板上のスイッチ (SW21-1,2,5) を「設定番号一覧表」で選択したスイッチ設定番号に該当する設定に変更します。

【設定例】ロングライフフィルター + 加湿器 1 台取付けを組合せた場合（標準）

SW21-1 『ON』、SW21-2 『OFF』、SW21-5 『OFF』に設定する（スイッチ設定③）

スイッチ 設定番号	アドレス基板上の設定			スイッチ図 (SW21)	初期出荷設定	チェック欄
	SW21-1	SW21-2	SW21-5			
①	OFF	ON	OFF		—	
②	OFF	OFF	OFF		○	
③	ON	OFF	OFF		—	
④	OFF	ON	ON		—	
⑤	OFF	OFF	ON		—	
⑥	ON	OFF	ON		—	



スイッチの見方例：左記スイッチは 1～5がON、6～10がOFFを示します。

### [4] リモコンにより設定する場合（対象リモコン：PAR-32MA 以降、PAR-F30ME 以降）

リモコンの機能選択より、機能設定 No.08 および機能設定 No.10 を選択し、「設定番号一覧表」に従い機能設定値を変更します。

【設定例】ロングライフフィルター + 加湿器 1 台取付けを組合せた場合（標準）

機能設定 No.32 の設定値を『2』にする。機能設定 No.08 を『3』、機能設定 No.10 を『1』に設定する。

#### 【お願い】

- ・機能選択により室内ユニットの機能を変更した場合は、必ず全ての設定内容を表のチェック欄に記入してください。

## 8. ユニット本体の吊下げ

ユニットは水準器などを使用して、水平に据付けること。



指示を実行

ユニット本体の据付けについては、ユニット本体に付属の据付説明書に従ってください。  
また、据付け時には、配線の狭み込みに注意してください。

## 9. 給水配管の取付け

給水配管は図26を参考にして接続してください。

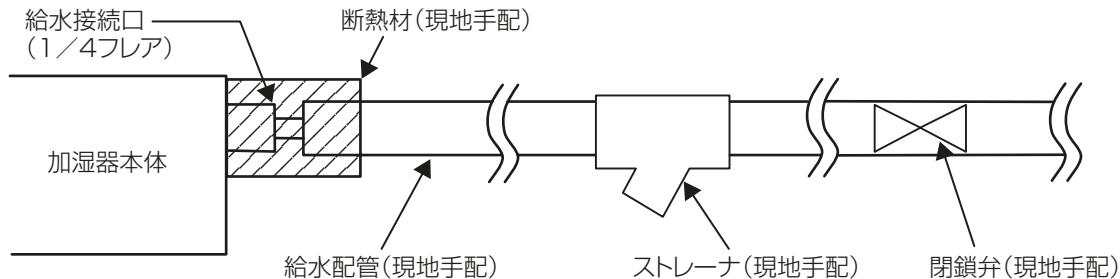


図26

- 給水には市水または上水を使用してください。ただし、公共の水道管に直接接続することはできません。このような場合はシスターントンクを御使用ください。水中にゴミがあると弁が詰まり、加湿不能となったり、弁の閉止不良による水漏れの原因になります。
- 一次圧力は0.05～0.5MPaの範囲でお使いください。  
**加湿器2個取付けの場合は必ず減圧弁を取付けて、0.05～0.2MPaに減圧してください。**
- 閉鎖弁やストレーナは操作およびメンテナンスしやすい位置に取付けてください。

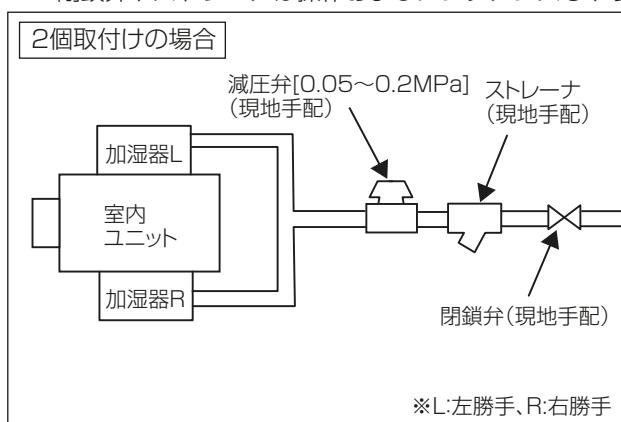


図27

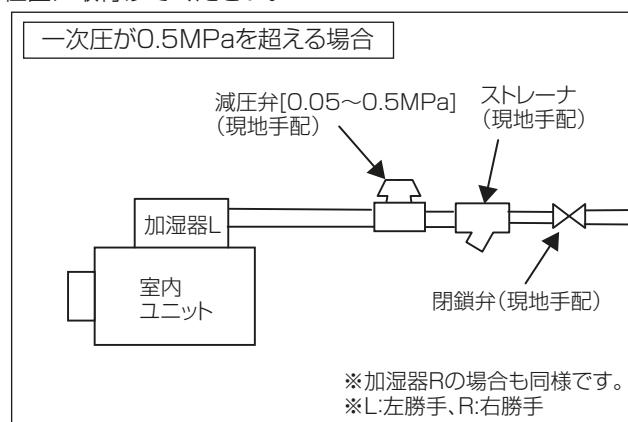


図28

- 屋内配管やストレーナ、閉鎖弁、減圧弁には結露・凍結が防止できる断熱工事を施工してください。
  - 給水配管(現地手配)を接続する際は必ず加湿器カバーを外し、図29の加湿器給水管の指定部分をスパナ等の工具を用いて固定して作業するようにしてください。固定しないと加湿器内の配管が破損するおそれがあります。
- ※加湿器カバーの取外しは「12. 加湿エレメントの交換 (21ページ)」を参照ください。

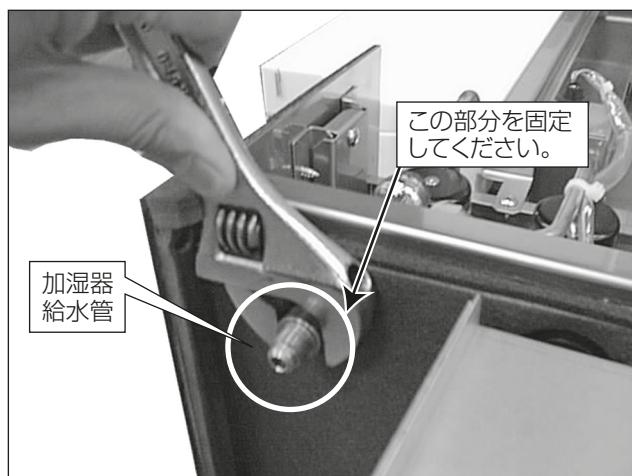


図29

銅管外径 (mm)	フレア寸法 φ A 寸法(mm)	締付トルク N·m (kgf·cm)
φ 6.35	8.7～9.1	14～18 (140～180)

### 手順

1. 加湿器のフレアナットおよびキャップを取り外す。

2. 水配管をフレア加工する。

3. 水配管を接続する。

フレアナットは、トルクレンチを用いダブルスパナにて  $16 \pm 2\text{N}\cdot\text{m}$  の締付トルクで締めます。

フレアナットを上記の値より大きな締付トルクで閉めると、ナット破損による水漏れのおそれがあります。

### お願い

- 油を使用しないでください。

## 10. 加湿器の試運転

### <1> 加湿器からユニット本体への排水性確認

加湿器本体のカバーを取り外して、加湿器本体のドレンパンに約 0.5 リットルの水を徐々に入れ、ドレン排水が確実に行われること、ドレンホース接続部から水漏れのないことを確認してください。確認後、カバーを取付けてください。

### <2> 加湿器動作およびドレンポンプ動作確認

- 配線が正しく行われているか確認してください。
- 給水配管が確実に接続されているか確認してください。
- 給水配管の閉鎖弁を開いてください。(この時、加湿器に水はまだ給水されません。)

#### (1) 電気工事（室内外電源線及び伝送線配線工事）が完了している場合

##### 1) 給水確認

###### 手順

1. 電源を入れる。

2. 室内ユニットを暖房運転 <弱風> にする。

この時電磁弁が作動し給水が始まります。

給水が始まつてから数分毎にフロートスイッチが作動し、給水が停止します。

暖房運転中はフロートスイッチの作動と同時にカチッという電磁弁作動音がしますので、それを目安に約 20 分間正常に電磁弁が作動しているか確認してください。

##### 2) ドレンポンプによる排水性確認

上記運転を 3 時間以上継続し、ドレン口透明可視化部及びドレン配管の最終出口部にてドレン水が排水されることを確認してください。

###### お願い

試運転完了後、長期間使用しない場合は、給水配管の閉鎖弁を再び閉めて強制乾燥運転をおこなってください。(強制乾燥運転は約 4 時間送風運転するのが目安です。)

強制乾燥運転をせずに長期間使用しない場合、カビ発生のおそれがあります。

#### (2) 電気工事（室内外電源線及び伝送線配線工事）が完了していない場合

##### 1) 給水確認

###### 手順

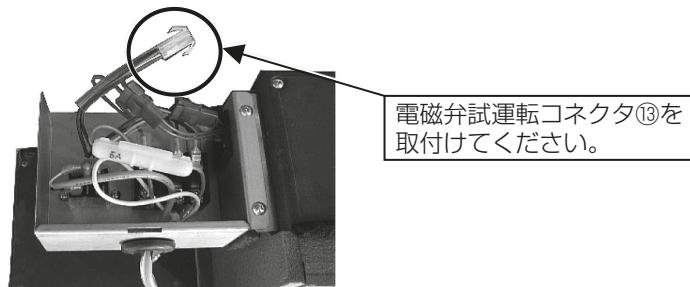
1. 室内ユニット制御基板上のコネクタ (SWE) を ON 側に差し換える。

2. 加湿器制御箱内の下記箇所に付属の電磁弁試運転コネクタ⑬を取付ける。(下図参照)

3. 室内ユニットの電源端子台に単相 200V を通電する。

(この時、加湿器とドレンポンプ、送風が強制運転されます。)

試運転中はフロートスイッチの作動と同時にカチッという電磁弁作動音がしますのでそれを目安に約 20 分間正常に電磁弁が作動しているか確認してください。



##### 2) ドレンポンプによる排水性確認

上記運転を 3 時間以上継続し、ドレン口透明可視化部及びドレン配管の最終出口部にてドレン水が排水されることを確認してください。

##### 3) 給水確認とドレンポンプによる排水性確認後の処置

###### 手順

1. ドレンポンプ試運転コネクタを取り外す。

2. 元のコネクタ (2P) に差換え、制御基板上の SWE を OFF に戻す。

### お願い

試運転が完了した後長期間使用しない場合は、給水配管の閉鎖弁を再び閉めて制御基板上のコネクタ（SWE）をON側に差し替え強制乾燥運転をお願いします。

（強制乾燥運転は約4時間送風運転するのが目安です。）

強制乾燥運転をせずに長期間使用しない場合、カビ発生のおそれがあります。

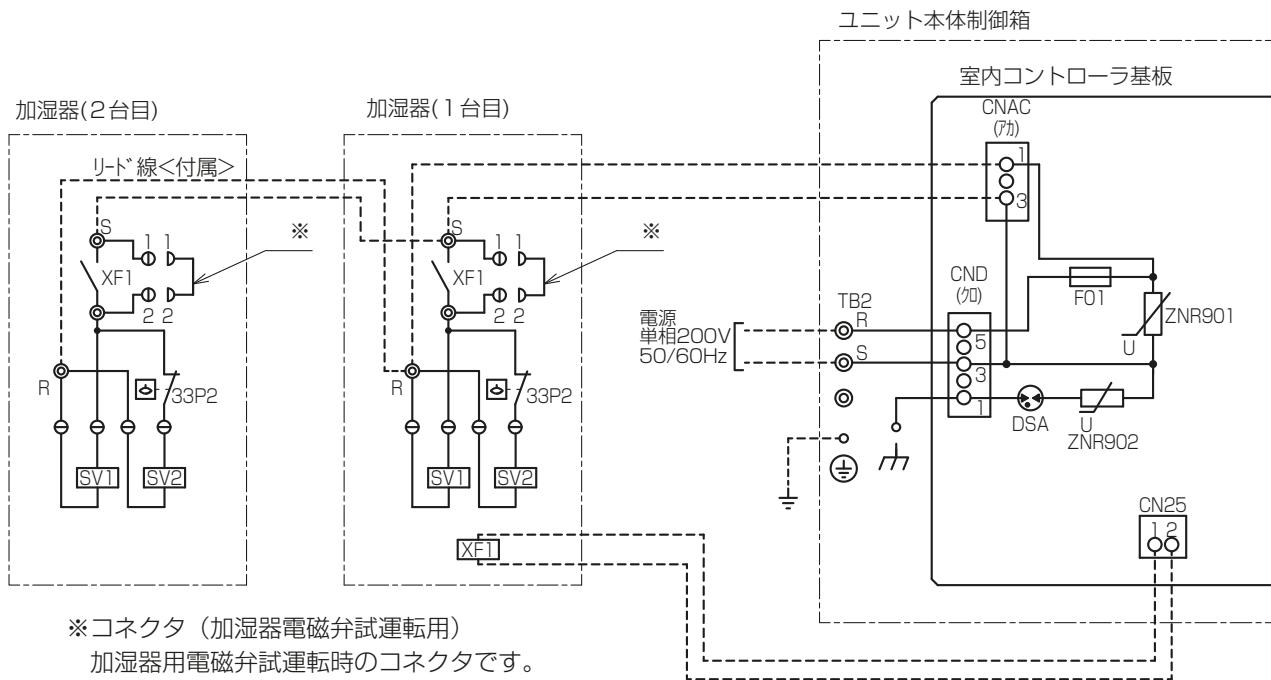
### <3> 加湿シーズン前の点検事項

- 1) エレメントが正常に取付いているか確認してください。  
「<2> 加湿器の取付け」の「(3) ユニット本体に加湿器を取付けます。(10ページ)」の確認事項を参照ください。
- 2) エレメントが蒸発残留物およびホコリ・ゴミ等で汚れていないか確認してください。交換の目安は3年(3750時間)です。
- 3) 保守点検方法  
長い間ご使用いただくため、暖房シーズンイン時（汚れの状態により周期を早める）を目安に下記の点検を工事店にご依頼ください。なお、保守点検の際は、必ず電源を切ってから行ってください。

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置内容	
ストレーナー	ゴミによる目詰まりの点検	ストレーナーの洗浄を行ってください。	加湿不良
	Oリング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は交換してください。	水漏れ
給水管	傷や水漏れの点検	傷や水漏れがある場合は部品交換を行ってください。	水漏れ
電磁弁	水漏れの点検	水漏れがある場合は、部品交換を行ってください。	水漏れ
ドレンパン	ドレンパン内の汚れを点検	汚れている場合はドレンパンの清掃を行ってください。	排水不良
加湿エレメント	蒸発残留物、ゴミ・ホコリの点検	エレメントが蒸留残留物、ゴミ・ホコリなどで汚れていないか確認してください。ゴミ・ホコリのみの場合は、エレメントの結合部が外れないように取り扱いに注意して、清掃してください（水洗い可）。交換の目安は3年(3750時間)です。	加湿不良 白粉飛散
エアフィルター	ゴミによる目詰まりの点検	フィルターを清掃してください。	風量低下
ドレンアップメカ	排水性能の点検。 汚れ付着、ゴミ詰まりの点検	吸入口の清掃をしてください。 汚れが酷い場合は分解清掃または交換をしてください。 清掃後、排水性が低下している場合は部品交換をしてください。	排水不良

- 4) 上記の排水・給水確認を再度実施してください。

## 11. 電気配線図



### 注1. 記号説明

--- (太破線) : 現地配線  
○ : コネクタ / ◎ : 端子台

#### 加湿器 記号説明

記号	名称
XF1	補助継電器
SV1,2	電磁弁(加湿給水用)
33P2	プロトスイッチ(水位検知用)

#### ユニット本体制御箱 記号説明

記号	名称
CN25	コネクタ(加湿器信号)
CNAC	コネクタ(加湿器電源用)
CND	コネクタ(ユニット本体電源用)
TB2	電源端子台
F01	ヒューズ(6.3A)
DSA	アースタ
ZNR901	バリスタ
ZNR902	バリスタ

## 12. 加湿エレメントの交換

加湿エレメントは交換が必要な消耗部品です。供給水質が市水・上水で硬度70以下の場合、交換の目安は3年(3750時間)です。交換目安は保証期間を示しているものではありませんのでご注意ください。供給水中の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合、加湿エレメントの劣化が早まり加湿能力の低下、変色、白粉発生などがあらわれることがあります。加湿エレメントは以下の手順で交換してください。

### お願い

加湿エレメントを交換する場合は、加湿エレメントの強制乾燥運転を行ってください。  
強制乾燥運転を行わないと、水漏れのおそれがあります。

1) 加湿器カバーを外してください。(ネジ止め3力所)(図30)

次に加湿器内部の加湿エレメント固定板を外してください。(ネジ止め2力所)(図31)

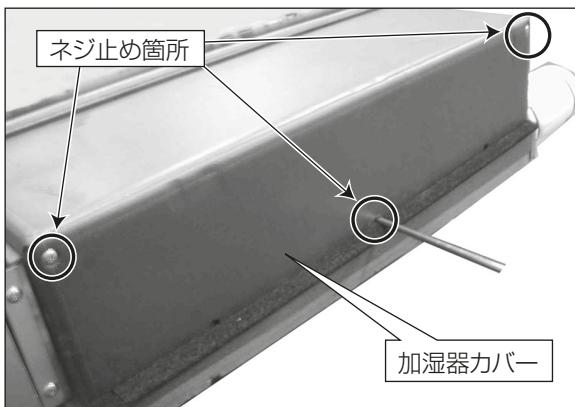


図30

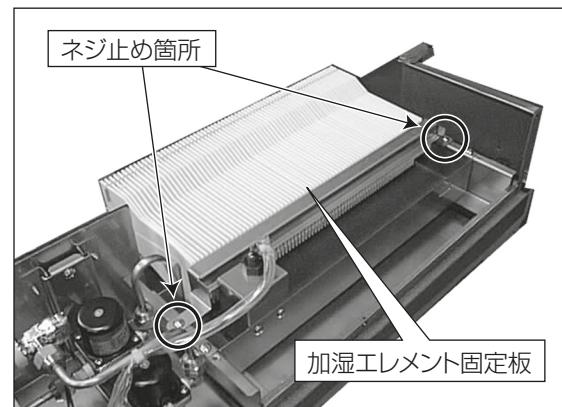


図31

2) 次に給水タンクを外し(ネジ止め2力所)、手前に引き出します。(図32)

その際少し、天板側に持ち上げるようにして外すとスムーズに外すことができます。(図33)

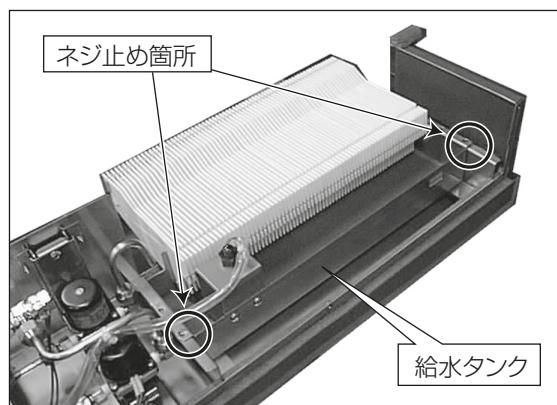


図32

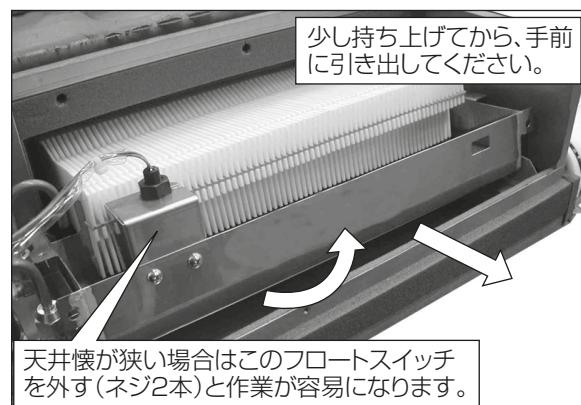


図33

3) 加湿エレメントを交換し(図34)、取外したのと逆の手順で給水タンク、加湿エレメントを固定して加湿器カバーを元に戻してください。

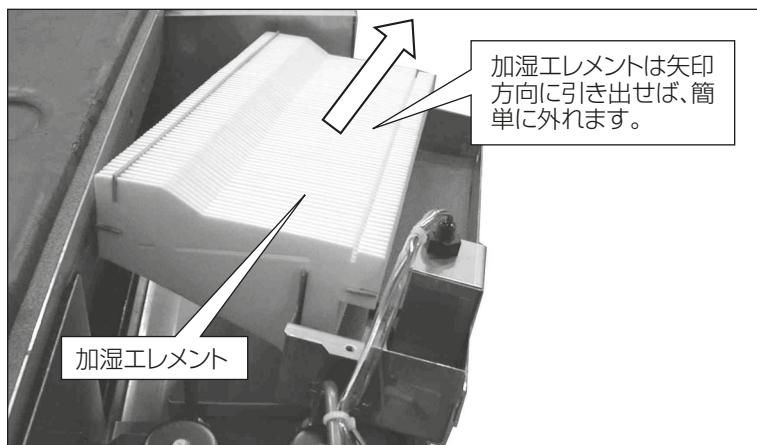


図34

# **MEMO**

**MEMO**

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

### 三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

## 三菱電機株式会社

本社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)  
冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66

WT08116X02